

公的組織 B C P 分科会 2009 年度 第 1 回会合 (議事録)

1 . 会合概要

- (1) 開催日時：2009 年 6 月 24 日(水) 17:30 ~ 20:30
- (2) 場所 所在地：東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
会場名：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室
- (3) 今回の議長役：細坪信二
- (4) 議事録作成者：古藤智行
- (5) 今回の幹事：細坪信二
- (6) 出席者：亀原（富士通エフアイピー）、古藤智行（パスコ）、佐々木（NEC）、斉藤（個人）、田中（オリエンタルコンサルタンツ）、野田（アジア航測）、藤原（建設技術研究所）、三富（アジア航測）、細坪、丸谷、矢野（建設環境研究所）、吉川（防災都市研究所）
(敬称略・50 音順)
- (7) 主要な決定事項
公表されている公的組織 B C P の整理
・公表されている自治体・省庁 B C P を分担してピックアップし、エクセルフォーマットにまとめる。フォーマットは、細坪座長が作成する。
今後の協議内容
・研究内容は、あと 1・2 回議論する。
・年度前半は、自治体から聞かれて答えられなかった内容や、自治体からの質問を持ち寄って協議していく。

次回の内容

- ・今回、できなかった財団法人東京市町村自治調査会の「市町村の B C P ~ 地震に負けない自治体づくり~」について、吉川氏より説明していただく。
 - ・農林水産省の「新型インフルエンザに備えるための食品産業事業者の事業継続計画策定のポイント」について、丸谷理事長より説明していただく。
- (8) 次回開催予定
開催日時：未定（次回以降は、月例講習会のあとには行わない）
場所 所在地：未定
会場名：未定
 - (9) 配布資料
2009 年第 1 回 公的組織 B C P 研究会 議事次第
「自治体 B C P の必要性和策定・導入への課題」

2. 議事内容

(1) 自己紹介

(2) 今後の進め方について

今後の進め方から発展して、出席者による自由な意見交換が行われた。

- ・ 公的組織 B C P の整備状況
 - 現状、何をしようとしているかという情報があまりない。
 - 地震 B C P を持っている自治体でも、新型インフルエンザはこれからのようである。

- ・ この研究会でのアウトプットについて
 - アウトプットするものと、行政に提言するものは、分けなければならない。
 - 自治体のアウトプットが出たら、それについて検証すべきで、これを研究会のアウトプットとすべきでは？

- ・ 受注する業者側としての優先業務
 - 行政から通常発注される業務が、災害発生後、法的なしばりで止めたくても止められないということがおきてしまう。また、行政から発注の物件の優先順位も問題となってしまう。
 - 水道・ごみ処理などの重要業務を受注した業者は、あらかじめ行政と取り決めすべきでは？
 - この件については、この件については、問題定義しかできないのでは？
 - 新型インフルエンザ時に、業務履行のために発注業務を継続する必要はないことを行政担当者に話した。これは、どのタイミングで話すかが大事である。

- ・ 公的組織 B C P のリスク分け及び通常業務の優先順位について
 - 資料「自治体 B C P の必要性と策定・導入への課題」の表 1「市町村 B C P の対象業務の例示」の内容は、地震だけでなく、他の災害、新型インフルエンザでも共通項となるのか？
 - B C P は、日常業務が継続できるようにするのが目的。通常業務の重要業務は、地震でも新型インフルエンザでも変わらない。通常業務を減らすのではなく、最大被害を基準として通常業務をどこまで増やせるかで考えるべき。職員参集などの、通常業務と同じ意思決定が伴う業務は、通常業務とすべき。

- ・ コマンド&コントロール標準化
 - 公的 B C P では、地震でも新型インフルエンザでも病人は除いて、出られる人はすべて出るというのが民間 B C P との違い。
 - 地震でも新型インフルエンザでも、全員出て来いではなく、時間による交代制にするなどの対応をとり、計画的に出るようにすべき。
 - 人材資源の効率的運用化が必要。
 - 新潟県・・・震災の反省から機能別の班編成を作った。
 - 欧米・・・職員の過去の部署暦から班編成を行っている。
 - 地域防災計画には、初動の数時間の発想がない。たとえば、市長が外部に第一報を出すために必要な、人員を参集してやるような地味な業務が規定されていない。

以上